

同志社大学通信

ONE PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION

特集／大学教育—マルチメディア化の可能性
同志社人訪問／深津 篤史さんに聞く
「岸田国土戯曲賞」受賞劇作家



No.121

1999 DECEMBER

DOSHISHA UNIVERSITY



COVER STORY

〔表紙の人たち〕



今回の表紙に登場いただいたのは第124回EVEの実行委員長を務めた中井誠一さん(神学部3年次生)。EVEを企画、運営する150人余りの実行委員たちをまとめ、無事大役を果たした。準備期間中は、各クラブやサークルの出店場所にも悩む日々が続いたようだ。中井さん自身は文化団体連盟「クラマ画会」のメンバーであり、飄飄(ひょうひょう)とした風貌は一見クールな印象を与えるが、ソフトな語り口調からは温かい人柄が伝わってくる。今年のEVEのテーマは“イナーシアからの解放”。イナーシアinertiaとは、「慣性」「惰性」の意味。実行委員たちが持ち寄ったアイデアの中から選ばれたこのテーマに「みなさんは何を感じてくれたか、尋ねてみたいですね」と笑顔で語ってくれた。

C O N T E N T S



特集

大学教育

マルチメディア化の可能性

2



同志社人訪問●

深津 篤史さんに聞く
「岸田国土戯曲賞」受賞劇作家

7

「情報モラル」を考える

10

来年度就職を目指す諸君へ
周知な準備が就職を制する

11

ゼミ・ゼミ おじゃまします●文学部社会科学科産業関係学専攻：千田 忠男ゼミ
発表も、司会も、学生たちが自主運営するゼミ

15

キャンパスニュース

17

ONE PURPOSE コメンタリー

21

先生の推薦する VIDEO & BOOK

23

私と「仕事」

25

特集

大 学 教 育

マルチメディア化の

可能性

コンピューターの進化とインターネットの出現で、私たちの学習環境は確実に変わってきた。必要な資料を探してWEBサイトを渡り歩く、友人との待ち合わせ場所を電子メールで確認し合うなど、電子メディアなしの生活など想像できない学生諸君も増えている。このように電子メディアが授業の形態まで変えようとしている昨今、情報革命は私たちに何をもたらしてくれるのか、あるいはテクノロジーの進化の果てに、どんな果実が用意されているのか。今回は“マルチメディア”をテーマに、今出川校地と田辺校地を結ぶ遠隔会議システムを使って話し合ってもらった。



▲田辺校地



▼今出川校地

マ	ル	チ	メ	デ	ィ	ア	と
聞	い	て	、	イ	メ	ー	ジ
す	る	も	の	は	？		

小原 ● 一般的な定義にしたがえば、マルチメディアとは、文字、音声、画像、動画などを統一的に扱うテクノロジーということになるようです。しかし、単にそれだけなら映画やテレビもそうした条件を満たす存在でした。ではマルチメディアがマルチメディアと呼ばれる所以はどこにあるのか。そのあたりから意見を伺ってみたいと思います。

西澤 ● いろいろなメディアを総合的に駆使するというテクノロジーは、今おっしゃったように以前から存在したし、教育の現場でも使われていました。ただデジタル化することによって飛躍的に早く、しかも多様なアクセスが可能にした。それから従来のメディアと明らかに違うのがインタラクティブ性ですね。ネットワークを介して、双方がリアルタイムに通信できるという点、これはやはり画期的なものだと思います。

芳賀 ● 西澤先生がおっしゃったインタラクティブ性というのがとても重要なんです。今日こちらに来る途中、利光さんと話していたんですが、私はここ数年、授業中に質問を受けた記憶がない。なぜか？ 学生にすればやはり恥ずかしい、「こんな馬鹿な質問は誰もしないんじゃないか？」と。これがコンピューターを、あるいはネットワークを使った授業になると学生と教員のワン・トゥ・ワンのコミュニケーションを可能にしてくれるので、周りに遠慮す



ることなくどんなことでも質問ができる環境が生まれるのではないかと期待しています。そういう意味でマルチメディアは新しい教育の出発点になる可能性を秘めていると考えています。

小原●授業の話が出たところで、学生のみさんにも話を伺ってみましょう。

利光●芳賀先生の授業は、H T M L 文書をテキストとしてスクリーンに映し出してくれる。だから耳で聞くだけでなく、不明点は文字情報として確認できるのでとても分かりやすかった。

浜口●私の場合、マルチメディアという言葉でイメージするのは、体験できないことまで体験させてくれるということですね。普通なら会えない人と会話ができたり、あるテーマで議論を交わしたりできる。先ほど芳賀先生から「学生はほとんど質問をしない」との指摘がありました。が、学生の立場からすると恥づかしいということも確かにありますが、もう一度自分の考えを整理してから質問したいという思いもあって、マルチメディアを使った授業ならそれができるのではないかと思うのです。

戸田●神学部は少人数制の授業形態をとっていますから、ほとんど質問し自由に意見を言い合っています。少人数制がはからずもマルチメディアの機能を果たしてくれているんですね(笑)。余談になりましたが、マルチメディアを使った授業について意見を述べるなら、昨年、小原先生のホームページを使った授業に出席した印象として、インターネットを使うと、知識とか思考が次々とリンクしていくんですね。たとえばテキストを読んでいて分からない用語に出くわすとインターネット

で検索する、その解説に不明点があればさらに検索するというように、際限なく知識が広がっていく。一方、先ほどの浜口さんの発言にあったバリエーションなコミュニケーションというのも重要なポイントで、宗教や信仰など人間にまつわる学問をするうえで、こちらにいない誰かと電子メールやチャットを介して言葉を書いたり議論を重ねていくと、自分のこととして実感でき、思考も深めていくことができるんですね。

マ	ル	チ	メ	デ	ィ	ア	を
利	用	し	た	授	業	と	は
？							

小原●マルチメディアは、しばしばパッケージ系、ネットワーク系、シアター系の三つに分けて語られますが、まずパッケージ系について意見を伺えますか。

西澤●パッケージ系ソフトウェアは確かに便利なので、出始めた頃から私も注目してきましたが、現状では限界があるように思います。たとえば電子百科事典にしても、すでにあったアナログ資料をデジタルに置き換えただけです。だから編集者が書いたストーリーでたどっていくしかない。これが将来、閲覧する人の目的、あるいは学習度にしたがって変わっていくようになれば、独自の発展性を見せるでしょう。しかし、そうなるとネットワーク系、シアター系との境界は無意味なものになってしまうかもしれませんね。

芳賀●私も個人的には、いろいろ使っています。英語は、英和、和英にかかわらず書籍形態の辞書はひかない。パソコンに入っている電

(発言順)

座 談 会 出 席 者



司会 小原 克博
神学部専任講師



戸田 敦子さん
【神学部】
3 年次生



浜口 百合さん
【法学部政治学科】
3 年次生



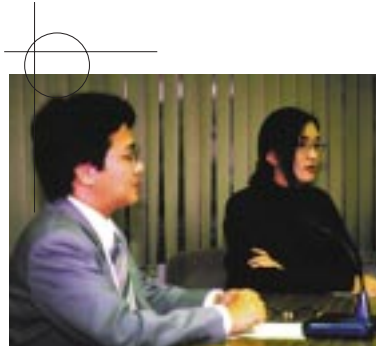
利光 藍さん
【工学部知識工学科】
3 年次生



芳賀 博英
工学部助教授



西澤 由隆
法学部教授



子辞書で間に合っています。また、わが家には小学校三年生をかしらに三人の子供たちがいるのですが、彼らも国語とか算数とかの勉強に、市販ソフトを喜んで使っています。ただ、そうしたフリーム型CAIというのは、答えが決まっている。だから早く計算するとか、単語を覚えるといったスキルアップのトレーニングにはいいと思うんですね。しかし、エデュケーションという点では不十分です。エデュケーションというのは目標があるわけではなくどこまでいけばいいのか、あるいはどこへいくか分からないものですから、答えが決まってしまうというクローズドなパッケージソフトは本質的に馴染まないでしょう。

戸田●私も、語学の勉強にパッケージソフトを利用しています。デジタルの良さというのは、先ほどもいいましたが次々にリンクしていく点にあって、パッケージ型という閉じた世界の中でも、知識が広がっていく醍醐味があるように思います。その一方で、辞書をひき調べたところにアンダーラインを入れられるアナログの良さも大切にしたいとも思いますね。西澤●アナログとデジタルの話でいいですね。最近は昆虫図鑑や天文図鑑などさまざまな図鑑ソフトが出てきています。デジタル

になると昆虫の動きであるとか、生態であるとか従来では説明しづらかったメカニズムもアニメーションで分かりやすく伝えることができます。しかし、たとえば生みたての鶏の卵の温かさといったものは、今のマルチメディアではまだうまく伝えられない。そこにデジタルとアナログをうまく融合していく可能性があるのではないかと思いますね。

小原●時代がどんどんデジタル化していく中で、マルチメディアもまたポジティブな面とネガティブな面を持ち合わせているということだと思ふのですが、そうした観点から、今度はネットワーク系といわれるものに話題を移したいと思います。

芳賀●ネットワーク系というと、われわれが授業に採り入れているインターネットが一般的なものでしょうけど、私はネットワークを使った授業というものと、マルチメディアを使った授業というものをあえて区別したいと思っていますね。ネットワークということでは考えてみると、戸田さんの発言にあったようにリンクするということが大きな意味を持つてくる。知識とか情報は、決して孤立しては存在しないわけで、とくに近代のように知識や技術が複雑に交錯し合う世界では、ひとつの体系、ひとつの組織が持つ情報だけではとても完結しない。だから情報を「渡り歩く」ということが重要になってくると思います。一方、教育という観点からネットワーク型の情報システムを考えてみると、やはり一番大事なことは受講生が自分の目標に対して能動的に活動することです。ところが、反省も込めていうなら、今の授業はネットワークを使ってはいても、一方的にわれわれ教員が情報を送って

るブロードキャストに過ぎない。分かりやすいという声も聞かれますが、所詮それも受け身で、ネットワーク型というからには思い切った授業の主導権を学生諸君に渡してしまいうくらいの発想の転換をしないとイケないんじゃないかと最近強く感じています。

小原●実際に学生が能動的に参加するような授業を試みられたことはありますか？

芳賀●大学院のプログラミング言語の授業なんです。言語の概要だけを伝え、あとは五六人のグループに分かれて実際にプログラムを作ってもらった。何のテーマも与えずに、すると、やればできるもので、例えばあるグループはプロ野球試合をテーマに、九回の裏ツライアウトでピッチャーはどんな決め球を投げたかの予測システムを作っていました。新聞社のデータベースにアクセスし、データを集めて作り上げたんですね。昨今、大学生の学力の低下が云々されますが、能動的に活動できる授業をやれば、彼らは立派にやり遂げられるレベルにすでにあると思いますね。

小原●西澤先生は、早稲田大学と結んで双方向性の遠隔授業をやっておられますね。

西澤●毎週一回、早稲田大学で私と同じ政治学をやっている田中先生のゼミと

ISDN回線





を使って合同ゼミを行っています。来週からは衛星回線を使ってやってみようと思っていますが、そうしたテクニカルな面は別にしても、二つのクラスをバーチャルな関係でつなぐ意義は、それなりにあると思っています。そのひとつは、学生間はもちろんですが、教える私たち教師にもいい意味の緊張した関係が生まれるという点ですね。同じ概念を説明するにしても二人が行うと、また違った視点から説明しますから厚みがでる。また今の説明は田中の方がよかった、今のは西澤の方が、と評価されますから緊張感が湧いてきます。

浜口●私は、西澤先生の合同ゼミに参加しているのですが、確かにいろんな意見が聞けて有意義です。ただ、発言するときはマイクを持たないといけないわけで、容易に口をはさめないとか、ある意見に笑いが湧き起こったその場の微妙なニュアンスが伝わらないとか、やはり距離の隔たりを感じます。

芳賀●私も遠隔教育、ネットワーク教育というものに非常に興味を持っておりま。そういう意味では、西澤先生はとても重要なことをやっていら。ところで、意地悪な質問で恐縮なのですが、私が企業で働いていた頃、テレビ会議システムを使う機会が多く、ほとんどの場合、詳しいことは今度お会いした時に、で終わってしまう(笑)。ゼミの場合は、そんなことにならないですか？

西澤●二つありまして、教員間においては事前にLINEで打ち合わせをしています。それでも最後には実際に会って話をしないといけないのは事実で、実は先週も東京に向向き、ゼミを今後どのようにやっていこうか相談してきたばかりです。もう一つは、学生間

においても同じようなことが起っていて、バーチャルな授業ではもうひとつ仲良くなれないせいか、合同合宿の話題が絶えず浮上しており、学生諸君も満たされたい気持ちでいるんじゃないかと推測しています。

芳賀●そのあたりが現状のマルチメディアの限界なんですよね。

同	志	社	に	お	け	る	マ
ル	チ	メ	デ	イ	ア	教	育
の	可	能	性				

小原●ここまで議論を進めてきて、おぼろげながらマルチメディア教育の持つ意義と可能性、あるいは限界といったものが見えてきたようです。では現実には立ち返って、同志社におけるテクノロジーアセスメントと申しますか、情報システムと、それを使う側の学生、教員の意識の問題について論じてみたいと思います。

戸田●情報処理実習教室で、テクニカルアドバイザーをしているのですが、ユーザー側、大学側の双方に問題があると思っています。ユーザー側は、この設備はどの様なスペックを持っているのか理解していない場合が大半で、努めて理解しようとしてもしていない。したがってビデオ・オンデマンドが導入されているのは知っているが、どこへ行けば使えるのか分からない。一方、大学も積極的に情報を開示しようとし。ない。もし本当にマルチメディア化を考えているのであれば、ユーザー側の私たちが消化できるだけの教育機会が与えられなければ使いきなせない。現状は、使える人だけ使っ

くださいと突き放されている感じがします。

芳賀●マルチメディアという技術は自己表現の手段です。ですからそのためのスキルは、職人さんがワザを常に鍛練するように、スキルアップする必要があります。しかしながら同志社の学生が卒業して仕事に就くとき、その多くはマルチメディアを「目標」としているわけではありせん、あくまでも「道具」です。この場合にはむしろ「マルチメディアを用いて何を表現するか」がポイントになるはず。言い換えれば同志社の学生に求められているのは高度な「編集」「技能」と思います。同志社は総合大学です。ここにはいろいろな価値観や視点をもった人たちが集まっています。ですから多種多様な人たちと意見をぶつけ合うのに適した学びの場だと思っています。また学生同士だけでなく、教員と学生の間にも、ある種の緊張関係を維持することも大切です。私個人としては、このような緊張関係を維持するための枠組みとして情報システムを考えたいと思っています。

西澤●同志社らしい情報教育という観点で考えるならば、私は大事なことが二つあると思っています。一つは創造性を大切にする。好奇心をそそるような教育環境を整えるという事です。が、これは残念ながらそうなっていない。OSもWindows95が当たり前のように導入さ



高度情報化キャンパスにおける 教育サービスの展望

—マルチメディア化からバーチャル化へ—

「マルチメディア」とは何でしょうか？——元来「メディア」とは情報を表現したり伝達したりする手段を意味することばです。したがって、「マルチメディア」の文字とおりの意味は「多様なメディアを有機的に組み合わせたもの」だといえます。「マルチメディア化」によって、より正確に、効率的に情報を表現したり伝達したりすることが可能になります。

教育サービスの中核をなす「授業」は、この「マルチメディア化」の効果がもっとも期待できる分野のひとつです。事実、教室では古くから講話、板書、掛図、模型など複数のメディアを組み合わせ、授業が行われてきました。

エレクトロニクスが飛躍的に進歩した1980年代は、教育サービスの「電子化の時代」でした。テープレコーダーやビデオ(VTR)、オーバーヘッドカメラ(OHC)などの「電子メディア」が教室に普及しました。これに対してコンピューターが爆発的に普及した1990年代は「デジタル化の時代」だといえます。デジタル化によって多様なメディアをコンピューターで一元的に取り扱うことが可能になりました。「マルチメディア」ということばが用いられるようになったのはこのころです。

2000年代——21世紀は教育サービスの「バーチャル化の時代」だと考えられます。「バーチャル」には「実質的に」とか「事実上」という意味があります。デジタル化されたマルチメディアコンテンツは、地球的規模で

急速に整備が進むデジタル情報通信ネットワークという新たなメディアと結合することによって、情報伝達に関わる空間的制約から解放されたより高機能なメディアになります。

大学の講義室に出向いて受講することと実質的にかわらない授業を受講生がネットワークを通じて遠隔地で受講できる「バーチャル授業」がすでに実施されています。さらに、授業だけではなく、図書館情報、教務情報などキャンパスで提供されるあらゆる教育サービスにどこからでもアクセス可能な「バーチャルキャンパス」が現実のものとなってきています。

同志社大学では、衛星デジタル通信による遠隔地大学との合同授業、ビデオ・オン・デマンド(VOD)とよばれる最新のデジタル映像配信技術を利用した学習支援、インターネット技術を活用した在宅受講実験やテキストのオンライン化、図書館資料の検索・閲覧サービス、携帯電話からの照会にも対応した講義情報サービスなど、21世紀にふさわしい高度情報化キャンパスを展望したさまざまな先駆的取り組みが行われています。

宮崎 耕 経済学部助教授

現在の専門は情報システム学。ここ数年は高等教育における情報教育のありかた、とりわけ文系における情報教育カリキュラムや遠隔教育について学内外で積極的な提案を行っている。本学学術情報センター幹事、学術情報センター委員会・計算機システム運営委員会・学術情報運営委員会・情報処理教育小委員会・情報処理研究小委員会委員。

れている。学生が書いてくるレポートを見てもみんな同じグラフだ。それはExcelを使いウィザードをポンと押して作ってくるからなんです。IllustratorやFreehandといったグラフィック専用ソフトで独創的なプレゼンテーションを作ろうという発想を育てる環境がない。だから個性のないものになってしまふ。もう一点は、匿名性の「落とし穴」に注意するということですね。ネットワーク授業においてもスクリーンを通して相手の顔は見えない。しかし、あくまでバーチャルな存在であって、微妙な表情の変化が伝わるわけじゃない。そこで

見失いがちなのが、ネットワークの向こう側にいるのは生身の人間だということです。匿名であるがゆえにその背後に隠れてしまふ個人というものが、私たちはそれを大切にしなければいけないと思います。ね。

利光 ● バーチャルユニバーシティのようなものも近い将来出現するのでしょうか。私のように時間をかけて通学している者にとつては、在宅学習ができてとてもありがたいことだと思います。その反面、先生がおっしゃったバーチャルでない現実の人間と出合える喜びは捨てがたいし、またそうした友人たちとのコミ

ュニケーションを通して社会性を身に付けるという点では、今の形態の方がよりバランスの取れた教養が身に付くように思います。ね。

小原 ● 私たちがマルチメディアに注目するのは、それが時代の要請であるからでなく、マルチメディアが多くの可能性を秘めているからです。同志社大学として、その可能性を何に求めていくか。学生の立場、教員の立場、それぞれの意見があるかと思いますが、西澤先生がおっしゃったように、同志社らしい教育を実践するための情報システムという視点で考えていくべきかと思っています。

深津 篤史さんに聞く

「岸田国土戯曲賞」受賞劇作家

深津 篤史さん

【1993年文学研究科新聞学専攻修士課程修了】

1967年生まれ。同志社大学1年次に第三劇場に入部。新人公演のための戯曲を担当し、本格的な劇団活動に入る。1990年、文学研究科新聞学専攻修士課程に進むとともに、劇団『桃園会』を旗揚げ。劇作家、演出家、そして劇団主宰者として、年3回ペースの公演活動をこなすほか、他劇団にも作品を提供している。1998年には、劇作家の登竜門といわれる第42回『岸田国土戯曲賞』を、1999年には『さくやこの花賞』を続けて受賞する。全国的に注目される関西演劇界の牽引者の一人。



大村●劇団活動と創作でご多忙の毎日だと推察しますが、現在公演の方は…。

深津●この十月で公演スケジュールはすべて終了しました。次回の公演は来春からですから、劇団活動は小休止し、依頼を受けている劇作にとりかかっているところです。

大村●深津さんは、新聞学専攻のご出身と伺っていますが、劇団活動との出会いについてお聞かせください。

深津●劇団との出会いは、偶然といっていると思います。大学一年生の六月だったと記憶していますが、第三劇場の公演を観て「これは面白そうだ」と入部したのがきっかけですね。その後、一年ほど第三劇場にいたのですが、座長を務めていた先輩が劇団を旗揚げされたので、誘われるまま第三劇場をやめ、劇団活動の軸をそちらに移しました。大学院の一年の頃でしたか、その劇団も解散してしまったので、自分で劇団『桃園会』を旗揚げし、現在に至っています。

大村●昨年、劇作家の登竜門ともいわれる「岸田国土戯曲賞」を受賞されましたが、学生時代から追いついていられるテーマはあるのですか？

深津●私の作品には、そもそもテーマがないんです。その一作一作にテーマを持たせていないし、メッセージもない。深津の作品の中にはこういうテーマがあるんだな、こういうことを伝えたいんだなというのは、演劇を観た個々人が感じてくれればいいんです。たとえば『チークスビテ』『テンペスト』という作品があるのでしょうか。この作品は「人間の業」について書かれたものである、とある人が感じたとします。その人は、そういう受け取り





方をしたのであって別の人はその作品は“愛”を表現したかったのだと感じるかもしれない。ただシークスピア自身は、決して“人間の業”あるいは“愛”をテーマに書こうとしたのではないと思うんですね。

大村●作品を書き上げるまでにどのくらいかけていらつしやるのですか？

深津●私の場合、タイトルや舞台の設定を考える時間を除くと、三週間くらいで書き上げます。先ほどもいいましたようにテーマも決めないし、プロットもあらかじめ考えないタイプなので、書き始めるとフラフラと書いていける。気分が乗ったときは、頭の中にもう一人の深津が現われ、彼が語るままに「うんうんなるほど」とペンを運ぶ。そんな感じかな。

大村●執筆のスタイルを聞いて、深津さんがテーマを決めないとおっしゃった意味が、なんとなく分かったような気がします。

深津●テーマがないといいましたが、言葉を少し補足しておいた方がいいかもしれませんね。作品のテーマはない。しかし、表現者としての問題意識のようなものは確かにそこにある。二、三年私が考えているのでは、演

劇の役割というもののなんです。かつて演劇には、舞台からメッセージが押し寄せるように伝わり、観客からもダイレクトに反応が返ってくる、そんなダイナミズムを持った時代がありました。それは時代が分かりやすかったからだと思うんです。ところが、現在は、対立構造が見えにくくなっている。個人レベルでこれを見ると、絶対的な他者というものがなく、対峙(たいじ)するものがないから自



分というものが分かりにくくなっている。だから自分探しというある種、消極的なテーマに移っていると思うんですね。そういう観点から考えると演劇の役目というのは、もう終わっているかもしれない。でもまだ踏ん張れるところがあるとすれば、もう一度、他者というものを明確にしてそれに対峙していくしかないんじゃないかと考えています。

大村●抽象的なお話になりましたね。



深津●ではこういう構図で説明してみよう。ここにAさんがいて、Bさんがいる。このAさんとBさんは、対峙することによって、自分を確認する作業を行ったとしましょう。そして、こんどは互いを理解しようとする。でも、たとえそれが恋人同志であつたとしても、AさんがBさんを理解することなど到底できない。諦めにも似た境地になる。でもそこでどまらずには単なるヒリリズムで終わってしまふ。人間というのは、たとえ他者を理解できないものだという事実を受け入れたとしても、それでもなお他者を理解しようとする。試みる……こうした人間の関係性を表現しようとするには、演劇というのが一番適した表現方法ではないかと、私には思えるのです。

大村●今の大学生は人間関係が浅い、とよくいわれますが、そんな中で、演劇のテーマを求めていくのは辛いものがありますよね。

深津●浅い人間関係の中で越境を描いてみても美しくも面白くもないわけで、われわれ劇作家はまずなぜ浅いのかを追求していかなくてはいいけない。そして人間関係に潜む溝を発見していく、あるいは溝を刻んでいく作業を



するわけです。

大村●学生時代はアマチュアでやっておられて、今はプロですよ。その違いは何なのでしょう？

深津●学生演劇を一年ほどやっていて、そのまま先輩の劇団に移っていますから、どこまでがアマチュアで、どこからがプロフェッショナルなのか自分でもよく分からないところがありますね。お金が稼げるからというのとも違うように思いますし、演劇というのは、とかく経済的に恵まれないものですから。あえていえば、与えられた仕事をきっちりこなす責任感でしょうか。団員によくいつているのは、学生演劇の入場料は六〇〇円、でもわれわれの入場料は二八〇〇円。芸歴はそんなに変わらなくても、二八〇〇円の演技をしないとだめ！入場料に責任を持って演じるのがプロなんです。だから演技を評価するのに金額でいつてやるんです。君の今の演技は百九十八円。タバコも買えへんねって調子ですね。以前は点数でやっていたんですがこの方がわかりやすいでしょ（笑）。しかし、これは信頼関係ができてから許されるのであって、信頼関係も築けていないのにこれやると人

間関係はぐちゃぐちゃになるでしょうね。

大村●最後になりましたが、学生時代にこれだけはやっておいた方がいいというアドバイスはありますか？

深津●個人的には、学生時代に舞踏を習っておけばよかったとか、いろいろありますが、一般的にいえばどうなのでしょう。たとえば、学生さんには二種類のタイプがありますよね。クラブをやり、勉強もし、恋愛もするというタイプ。もうひとつは、何もしないでゴロゴロしているタイプですね。私が思うには、ゴロゴロと四年間を過ごした人も、こうして過ごした四年間を決して後悔などせず、そういう時期だったんだと肯定的に考え、誇りを持って社会に出ればよい。人生は、時間がゆっくり回るときがあれば、必ず猛烈なスピードで回るときもあります。大学時代をゆっくり過ごした人は、これから待ち受けるであろう忙しい日々への助走期だったのではないのでしょうか。

大村●お話を伺って、私が今まで知らなかった演劇の深みを垣間見た感じがしました。演劇に携わる者として、ますますのご活躍を期待しています。



INTERVIEWER

大村 高敏さん

【文学部英文学科】 3年次生

ESSに所属。英語によるミュージカルや演劇活動を行い、創作や演出を担当する。将来は教職を目指す。演劇への思いも捨て切れず、演劇活動に奔走する毎日。九州から京都に来て三年半、もう少し関西のことも知りたいという。



劇作家の頭の中には、いろんな思いが渦巻いているのだと感じました。

非常に緊張してインタビューに臨みました。深津さんの演劇観や時代認識が上手にみなさんに伝えられたかどうか心配です。深津さんは、かつて高校生を対象にしたワークショップも開いていらしたそうで、高校演劇の持つ可能性と危うさについても、貴重なご意見を聞かせていただきました。表現者として演劇に関わるかたわら、高校演劇の指導や審査を通じて演劇を志す若者を支えてこられたと聞き、劇作家とも、演出者ともまた違う立場から演劇の普及に努めていらっしゃる姿に、演劇への深い思いを感じる事ができました。

「情報モラル」を考える



コンピュータに象徴される情報化の波は、私たちの生活にさまざまな革新をもたらした。情報流通の高速化やネットワーク化は、シームレスな新しい社会を到来させ、モバイルは情報を持ち歩く生活スタイルを定着させた。そしてもうひとつ、副産物として「情報モラル」という新しい言葉を生み出した。十月三十日、今出川校地、明徳館で開かれたシンポジウム「ネットワーク社会を生きる」は、その「情報モラル」について考えてみるよいきっかけとなった。

プ ライバシー、知的所有権、著作権、肖像権など、「情報モラル」で問題となる諸権利に、目新しいものはない。しかしコンピュータやインターネットを使うと、これらを実に簡単に侵害することができ、これが問題となり始めた。アプリケーションソフトをコピーし不正使用する、ホームページから勝手に画像をダウンロードする、あるいはテキストを無断借用するといった誰もが一度は誘惑にかられた経験のある行為が問題となっているのだ。もちろんウィルスの感染、悪質メールなどにより被害者になる可能性も潜んでいる。ことはうっかりやろろカーなど特殊な人たちが問題なのではない。私たちのごく身近な問題なのだ。

で は「情報モラル」は、私たちが常識として備えているはずの「日常モラル」として違うのだろうか。越智貢広島大学教授は、この「情報モラル」を行為の倫理、結果の倫理、そして知の倫理であると定義する。すなわち、問われるのは、意図や動機ではなく、行為であり、結果であるという。そして知らなかったではすまされない倫理であるともいう。だから教育が重要な意味を持つてくるとする。

文 部省の『新学習指導要領』により、わが国でも平成十四年度から中学校、高等

学校で情報処理技術とあわせて「情報モラル」が教えられることになっている。どのような内容がどのような形で教えられるのか、まだ見えてこないが、その実効に期待が寄せられる。しかし、越智教授はこの点について悲観的である。なぜなら「情報モラル」は「日常モラル」にかなりの部分を依存するからだという。「情報モラル」が大きくクローズアップされるきっかけとなったのは、インターネットの普及からだ。インターネットが生み出したネットワーク社会は、オープン性を特長とするが、同時にネティズン（ネットワーカー市民）が匿名性で結ばれた世界でもある。非対面で、しかも匿名でアクセスできるのだ。ここに問題が潜んでいる。「情報モラル」は越智教授がいうように行為の倫理、結果の倫理であり、「日常モラル」のように概念が問われるモラルでないため、法がブレキの役割を果たすことになる。交通モラルを想像すると分かりやすい。自動車の左側走行（日本の場合）や安全ベルト



などは、情念の入る余地はなく、交通法規によりルールづけされているだけだ。ところが「情報モラル」は匿名であるために、この法の網がかかりにくく、ルール違反者を特定しにくい。したがって、越智教授のいうように「情報モラル」は、結局のところ「日常モラル」に依存することになってしまう。社会のモラルの低下が叫ばれる今日、これはかなり危ういことであり、「情報モラル」だけを切り取って学校教育に取り入れても、実効があるものだろうか？と疑問を抱く。

ま もなく二十一世紀を迎える。高度情報化社会はまだ緒に付いたばかりだが、テクノロジーの進歩は日増しにそのピッチを速めている。法の整備も、その後を追うかたちではあるが進んでいる。問題なのは、私たち人間だ。技術の習得に追われるその一方で、モラルアップに無関心になっている。高度情報化社会は、同時に高度なモラルを求められる社会でもあることを肝に銘じておきたいものだ。

本稿は、十月三十日（土）、今出川校地明徳館一番教室と田辺校地知真館一三三教室を結ぶテレビ会議システムを利用して行われたシンポジウム「ネットワーク社会を生きる―倫理システム教育の視点から」を聴講し、まとめたものです。

周到な準備が就職を制する

—どんな仕事がしたいか考えていますか?—

1 あなた達先輩、我々がおかれています 労働状況

一九九九年年度版労働白書には「日本の雇用・失業情勢は、これまでにない厳しい状況を迎えている。完全失業者数は、一九九八年の前半に一気に五十万人も増加し、完全失業者数は、四月以降四割台と経歴したことのない水準に達している。特に、製造業、建設業の減少が著しい。この結果、有効求人倍率は、〇・五三倍と最低の水準となった。新規卒の採用においても、採用意欲は一段と減退している」と書かれています。

実際、大学生の求人倍率も一人あたり〇・

九九年と今年の四年生の就職環境は、超氷河期といわれた三年前よりさらに厳しい状況でした。しかし、自己分析をし、しっかりと就職準備をした学生諸君は成功をおさめています。これから就職を目指すみなさんも、四年生へのアンケート(図・グラフ)を参考に、積極的に就職戦線に立ち向かい、勝利をおさめていただきたいとおもいます。

ところで、あなた達は新聞を読んでいますか。テレビ番組・スポーツ欄は読んでいるが、経済面はちよつと…。これではだめです。企業・日本の雇用情勢は、今、あなた達が想像しているより大変な時代にはなっています。

金融ビッグバン、産業構造変化、M&A(吸収合併)、ライアンス提携、倒産、大量リ

ストラ(人員削減)。日本の企業の特徴であった「終身雇用」「年功序列」はくずれつつあります。「年俸制の導入」「能率給の導入」など、実力・能力が問われる時代がきています。のぼんとサラリーマン人生を送れる時代は、終わりを迎えているといっても過言ではありません。「大きいことはいいことだ」という保障はもうありません。いつ何が起ころうもおかしくない時代です。誰も、五年先いや一年先も予測できない時代です。

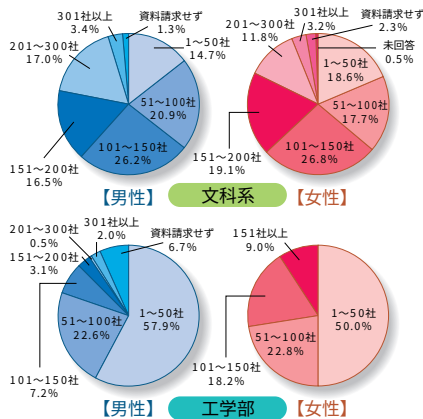
2 企業が求めている人とは

さて、企業はこのような時代にどのような人を求めているのでしょうか。目標に向かって意欲的・自発的に行動する人(自発的行動・チャレンジ型人間)、自らが問題提起し提案できる人(提案型人間)、好奇心旺盛な人、状況の変化に柔軟に対応できる人(柔軟型人間)、専門性を持っている人(専門性、国際感覚のある人(国際性)、広い視点でものごとをとらえられる人(グローバル型人間)、個性豊かで独創性を発揮できる人(独創性)などが求められています。

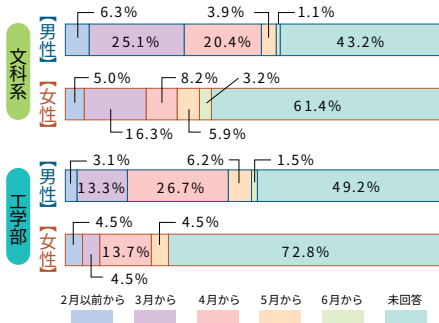
しかし、このような感覚・感性をもっている人も、内定をもらえらるには限りません。なぜなら、会社との相性もはいつてくるからです。仮に、A会社で採用されても、B会社では不採用ということは多々あります。毎年、何十社か面接をうけ、不採用という人は必ずでてきます。不採用だからといって、悲観することはありません。自己否定されていると思つて落胆しないでください。

●今年就職活動した人へのアンケート●
(1999年9月現在)

会社等への資料請求は何社出しましたか。



いつからOB・OG訪問をしましたか。

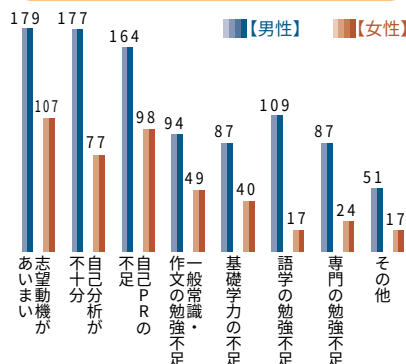


3 学生生活を有意義に

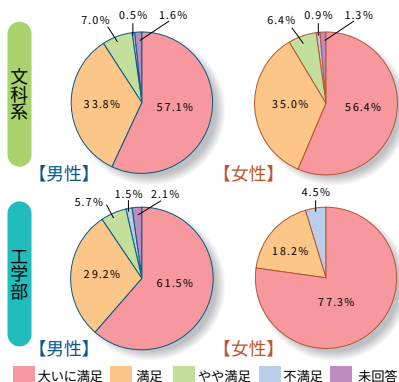
就職活動を控えている新四年次生の方まだ、就職は関係ないと思っている。一・二・三年次生の方、毎日の学生生活を有意義に過ごしていますか。将来の人生プランみたいなものは描いていますか。就職面接では必ず、「学生生活で何を学んだか」「学生時代何を学んだか」「学生時代に打ち込んだか」「学生時代に何を勉強したか」「語学は話せるか」「パソコンは使えるか」「今、何に興味があるか」「学生時代どんな本を読んだか」または、今どんな本を読んでいるかは聞かれます。これが、自信をもつていえるぐらいに今から心がけておいてください。

特に、語学に関しては、少なくとも、英語は話せるぐらいの能力は身につけておいた方がよいでしょう。パソコンに関しても、今や企業ではパソコンは仕事上欠かせないものとなっています。A会社では、会議はすべて英語で行われています。また、B会社では、各種連絡・コミュニケーションはパソコンで行っています。

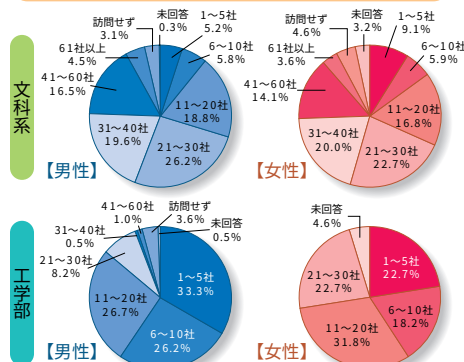
面接・試験段階での反省点 (複数回答)



就職決定先の満足度

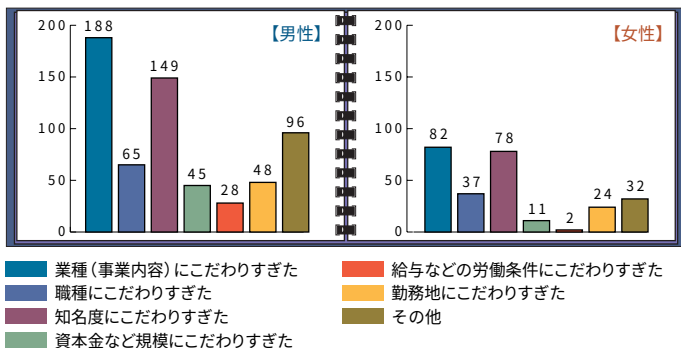


何社訪問しましたか。

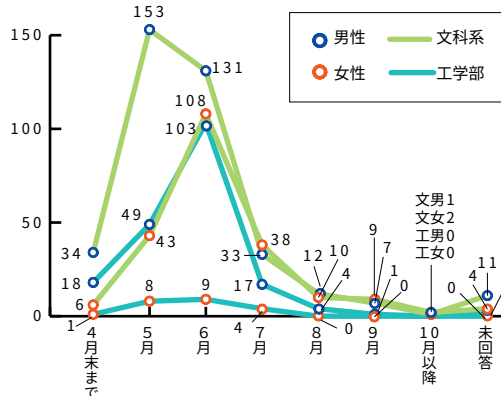


す。そのような会社は資料請求・説明会の連絡もパソコンでというふうになっています。「いかに学生生活・学生時代を過ごすか、過ごしたか」ということは将来の自分の人生に何かいかされてきます。「何かをした」「何かで悩んだ。でも、こう解決した。このことが、将来、何かの壁に突き当たった時、この経験がい

応募先選択段階での反省点



その会社から内々定(内定)をもらった時期はいつですか。



4 就職部というところ

就職部という部署は、ただ単に就職だけを斡旋しているところではありません。同志社大学を卒業・修了後、どうするのか。どういう進路・人生を送るのかを相談するところと、就職が決まらない人には、就職の情報提供・斡旋をします。その人にとっては、一大事です。ですから当然です。が、これからの人生をどう送るのか、家族、親戚、先生、友人、先輩などと相談し、なおかつ就職部にあるいろいろな資料などを利用し、就職部のスタッフにも相談しにきてください。学年は問いません。自分はまだ一年次生だから、二年次生だから関係ないと思わず、利用してください。

将来、国際機関での仕事を考えている人、海外で仕事をしてみたいと考えている人、留学を考えている人、国家公務員I種・II種を考えている人、地方公務員を考えている人、マスコミ業界での仕事を考えている人、早く準備することはありません。いつでも就職部に寄ってください。

以下、就職部で開催している主なセミナーを紹介しておきます。

仕事観セミナー、公務員セミナー、マスコミセミナー、教員セミナー、業界セミナー、国際機関関係セミナー、自己分析セミナー（自分の強み・弱み）、エントリーシートセミナー（自己PR・志望動機の書き方など）一年次生、二年次生から参加してみてください。セミナーについての詳細は、掲示板、インターネットをみてください。

■今年度実施の就職関係セミナー

10/5	公務員セミナー（外交官・国家一種）	12/1	エントリーシートセミナー①総論（文系）
10/6	公務員セミナー（地方・法律科目）	12/2	適性検査（工学部）
10/7	公務員セミナー（地方・経済科目・一般教養）	12/2	1、2年次生動機づけセミナー④ （新聞記者になるには）
10/14	裁判所事務官・家庭裁判所調査官補一種		
10/15	大阪府職員セミナー	12/3	体験談を話す会・聞く会①
10/21	マスコミセミナー	12/4	SPI対策講座（工学部）
10/22	滋賀県・神戸市職員セミナー	12/6	業界研究①概論編
10/26	就職ガイダンス（商学部）	12/7	エントリーシート①総論（工学部）
10/27	就職ガイダンス（文・経済・神・法・院生）	12/8	情報収集と活用方法
10/29	兵庫県職員セミナー	12/9	業界研究②（住友銀行・三和銀行）
10/30	就職ガイダンス（工学部）	12/10	体験談を話す会・聞く会②
11/1	新聞業界セミナー	12/11	SPI模擬試験・解説（文系）
11/2	1、2年次生動機づけセミナー① （今・働くとは）	12/11	SPI対策講座（文系）
11/5	国家公務員II種説明会 （人事院主催・13機関）	12/13	体験談を話す会・聞く会（工学部）
11/6	SPI模擬試験・解説（文系）	12/13	広告業界セミナー②
11/9	京都市職員セミナー	12/14	適性検査（文系）
11/10	自己分析セミナー①	12/14	外資系企業セミナー
11/10	制作業界セミナー	12/15	女子学生セミナー②実践編
11/11	1、2年次生動機づけセミナー② （女性として国際交流の場で働く）	12/16	業界研究③（野村證券・住友信託銀行）
11/13	SPI模擬試験・解説（工学部）	12/17	1、2年次生動機づけセミナー⑤ （外交官になるには）
11/15	広告業界セミナー	12/17	SPI模擬試験・解説（工学部）
11/16	国家公務員一種説明会 （人事院主催・11省庁）	12/18	SPI対策講座（文系・工学部）
11/17	放送業界セミナー	12/20	業界研究④（日本生命・東京海上火災）
11/17	自己分析セミナー②（追加）	12/21	適性検査（工学部）
11/18	女子学生セミナー①概論編	12/25	女子学生セミナー③直前編
11/19	就職適性検査	12/26	エントリーシート②文系
11/22	1、2年次生動機づけセミナー③ （国連職員になるには）	12/27	エントリーシート②（工学部）
11/22	自己分析セミナー（工学部）	2/9 10	就職ガイダンス②
11/22	自己分析セミナー（工学部）	2/14 7	企業研究セミナー
11/24	SPI対策講座	3/1 2	外資系企業セミナー

以上の他に、エントリーシート体験セミナー、マスコミ質問会、就職システム体験セミナー、就職システム説明会など開催しています。

これから就職を目指す後輩へ
— 四年生・大学院生からのメッセージ —

「建設業」就職活動の目的は、自分の活躍できるフィールドを発見することです。決して有名企業に入ることでありません。(法・男) どんな仕事でも嫌なことはないと思います。しかし自分で選んだ仕事なら耐えられると思います。(経済・男) 企業研究セミナーにはたくさん参加してください。今まで興味なかった業界の魅力に気づくことがあります。(文・女) 「食品製造業」企業に対しては、このようにある企業の自分の面接で出ることができれば必ず自分に向合う企業にめぐり合えると思います。(法・男) 就職活動は自己分析に始まり、自己分析に終わる。といういいけど自己分析は大切。(商・男) 「新聞・出版」手当たり次第受けて、内定数で勝負するのがでなく、じっくり時間をかけて取組む方が会社に熱意は伝わるはず。まずは自分が何をしたいのかをしつかりと考えてから始めるべきだと思う。(テメ研・女) 応募締切が複数ある企業(一次締切、二次締切)を受ける場合、できるだけ一次締切までに応募するように。ほとんどの企業は、一次締切で積極的な採用、二次締切は消極的。(法・男) 「化学肥料」無機・有機、むやみやたらに会社を受けても企業研究不足で落ちてしまいます。行ききたい分野を早い内に決めてその分野の会社をポイントで受けたい方がいい。(経済・男) 「薬業」決断に必要以上に自分を美化せず、ありのままの自分を見せる。必ず自分を高く評価してくれる会社はあると思うので、粘り強く就職活動を続けてください。(商・男) 「金属機械器具製造業」氷河期こそ本当の自分を採用してくれるチャンスだと思います。(経済・男) 「一般機械器具製造業」自分をさがさないことが大事だと思います。人事の方々は人を見るプロです。(商・男) 「電気機械器具製造業」私が、心がけたことは、絶対に相手が質問したと思っていてるポイントをはずさないようにしたこと。(経済・男) 「電気機械器具製造業」自己PRなど友達に聞いてもらったほうが良いと思います。(経済・女) 「森に迷ったらずに止まるに進め、そんなデカルトの言葉があれがありますが、これが通用するのは活動初期です。それで以降に迷ったらずに止まらずに進め、道を見極めてから進みましょう。(文・女) 「その他の卸売業」就職活動中は、時々友達と連絡をとったりして、情報交換や話をすることも大切だと思います。(経済・女) 「各種商品小売業」パソコン予約ができなくない企業がたいていあり、機会を逃がすことになりません。私はそれで多くを逃しました。(法・男) 筆記試験で落ちたらそれだけ会社への熱意があつてという意味があらわれます。なるべく事前勉強しましょう。(文・男) 企業が求めているのはコミュニケーション能力。特に女子は重視されています。

と思います。自分に自信をもつて謙虚に。愛想よくしながら自分の意見をしっかりとることが大事です。(文・女) 「交通銀行」普通銀行、人気企業はSPIでどんどん足切りするので対策はしっかりと。(法・男) 女子学生の就職は男子学生より厳しいと言われていますが始める前から卑屈にならないこと。女性の活躍を期待している企業もあります。(法・女) 筆記テストであまり落ちないというものは全くの嘘です。せっかく面接で三次まいったらもう三次で筆記という会社もたくさんあります。(経済・女) 業界はほるべき。幅広くは二〜三月の学内セミナーで終わるつもりでないと苦しい。電話攻撃は有利、ただし話す内容を具体的に。リクルーターは笑って元気がよくないといえども始めは広い視野でいろいろな会社をみていくことが大切だと思う。また、友人は大切にすべき相談にのって、気づくしにしよう。愚痴にのって友人を頼り、助けていくとお互いよい方向にもむかう。(法・女) 他人と比較しないこと。(法・男) 早く早めに動く。同社という名前だけでは通じない。選考基準がわからなかったで落ちてもよくない。(商・男) 「信用金融」インターネット、ソクナビなど情報は集めやすいがそればかり頼りすぎず。志望動機などしっかりと考えておくことが大事です。(法・女) 「政府系公企業」初めのうちは多くの業種を回り、多くの人に出会ってほしい。(経済・男) 「給料系」自分がどんな欲求を満たしたいのか、会社、社会の知名度、仕事の内容、何によって満たされるのか常に考えながら行動してください。SPIだけでなく面接での損はないです。(商・男) いくら知名度のある企業でも自分に合わないと思った、即刻辞退しましょう。(経済・女) 「生命保険」会社にとってその人がどれだけ会社に利益をもたらすかが重要なポイントです。(法・男) 大企業、良い企業は全国にいくつでもあり同社社の学生であればほとんどの企業に内定するチャンスがあります。ただ将来長い期間に渡って働くのだから自分にあった企業を業界にこだわらず探せばよいと思います。(経済・男) 「損害保険、共済事業」情報収集は大切なことです。が実際に経験して得られることが役立つと思います。自分の物の見方を大切にしてください。(文・女) 知名度や規模にこだわらない。調べたものと成長している企業や知人を知る優良企業があります。(経済・女) 「運輸業」女子は筆記で落とされるのが多いので必ず問題を一冊でいいのでやっておくべきです。まずは早稲田経典出版の『SPI能力検査30秒即解法』(小林公夫著)です。(文・女) 就職活動に王道はありません。自分について人生について面談があればよく考えてください。そうでなければ終わる後、すきりしないままになってしまいます。(法・女) 最も大切なものは理論的に「考える」ということ。面接での質問は「〜に聞きたいと思うか?」より「どうして〜と思うのか?」というものであるからです。

(商・男) 「通信業」たとえ資格や特別な能力を持っているので、人間誰でもさらけ出すことで必ず自分を見とめてくれる会社が見つかると思います。(経済・男) 特に女子にとってはメーカーは厳しいものがある。英語力に絞らなければなりません。(法・女) 英語を勉強しておくべきだと思います。(法・男) 「放送業」大人と普通に会話できるだけの知識・マナーを身につけてください。(周・女) 就職活動は試行錯誤の繰り返しです。周囲のどんなアドバイスも自分で咀嚼してはじめて意味をもつ。文・女、難易度が高い企業で意味をきたないならチャレンジすべき。(文・男) 「広告業」マスコット志望であれば、プラス思考で忍耐、財力、好奇心を備えている人が向いていると思います。そして考え方に柔軟性がある人、自分の良さを相手に伝えられる人が絶対条件ではないでしょうか。(経済・男) 「ソフトウェアサービス」オリジナリティを持たなければならぬ。(商・男) 面接は数をこなすこと。(経済・男) 下手に勉強しすぎるとイメージが先行して緊張しすぎる。相手をお父さんか何かかと思つて答えていった方がクリアできる可能性が高いと思つた。(経済・女) 特に女子は知名度(あこがれ)にこだわらず上々いかな方がいいことが多い。幅広い企業をみるようにしたいことが多い。幅広に企業をみるようにして生を情報を受けてから業界なり企業にたいする判断をしながらか活動するべきではない。(法・男) 面接では具体的な目標(三十歳までにシステムアナリストになるとか)を言うとお印象を持てもらえる人もつづの道です。(文・男) 「専門サービス」資格浪人もひとつの道ですが、とくに税理士、資格大会計事務所のようなところでは資格取得を期待されるので、いい意味でプレッシャーにでき、また実務と資格試験対策が結びついているので、そういう道もある、ということ活動されてもいいのでは。(商・女) 資格取得、語学力強化とともに大切。自分のアピールになることも強みになります。(文・男) OB訪問は勉強になるのでぜひやった方がいい。活動中は辛くしんじながら、気持ちの切り替えが勝利の鍵です。最後まで諦めずにがんばってください。(神・女) 「公務員」民間に就職するなら、三年生の秋から活動した方がいい。公務員試験を受けるなら、始める時期が遅くても全力を尽くせば受かる。但し、国家公務員は少なくとも三年生の一月から始めないと間に合わない。(法・男) 公務員の二次は民間を体験するの(そのまゝ)。(文・男) 公務員試験は内定時期が遅いので、民間に決まっていくなちをみて、この不安になるかもしれない。それは自分との戦いです。公務員が第一志望ならば、焦らずコツコツ努力するしかありません。(テメ研・女) 国家一種試験最終合格後の採用面接で自分が希望する官庁へ行きたいければ、事前の官庁訪問をなるべく熱心に積極的に行ってください。(法・女)

【工学部】「建設業」SPI試験はかなり難しくなっている。問題集を二〜三冊しておいた方がいいでしょう。(工・男) 自信の無い者は就職活動に成功できない。自分を信じて前向きに努力する。そしてせっかく活動するのだからその中で自分を磨いてほしい。(工・男) 「食品業」たばこ製造業、活動終了後に「あの会社も受けてみればよかった」と思うことがよくあった。少しでも興味がある会社はなるべく多く受けてみてください。(工・女) 自分のやりがい職種を目指すのは大事だが、特に「女性の技術職」という条件は厳しい。初めから業界や業種を絞らずいろいろな会社を受け、その上で適性を考えるべき。(工・女) 「化粧品、医薬品、合盛、医薬品関連の会社は説明会の時期が他社より早かったので就職活動に向けて準備するのが早くなることに注意してください。(工・男) 「一般機械器具製造業」会社の財務状況はしっかりチェックすること。(工・男) 「電気機械器具製造業」面接は、コミュニケーション能力を見られる場だと思つて。過度に意識せず、素直に言葉のキャッチボールをすればいいと思つた。(工研・男) 大学院生だからとんびり構えず、文系や学部生と同様に早くから就職に対する意識を持ち、資料請求やセミナー予約など積極的に活動する方がいい。(工研・男) どんなに困難に見えても可能性が零でなければ、執念を持って取り組んでみる。少なくとも私は何回も絶望感に襲われたが、第一志望の会社から内定をいただいた。(工研・男) 「わがまま」しかし、これから勉強していききたい分野です。など肯定的に自信を持って答えるというよい手段。(工・女) 希望の会社に入るためには充実した学生生活を送ることが一番の近道です。(工研・男) 「輸送用機械器具製造業」最初大学院希望だったが、就職活動をするにしろいろいろな進路を考えることができた。その結果として就職することになったわけだが、この進路を選んだ満足している。(工・男) 適性試験、面接等の前には必ず自分が受ける会社での事業内容の勉強はしないとい合格はしないと思ってください。(工・男) 「ソフトウェアサービス」情報サービス業は名の知れていない会社が多く、企業を選ぶのが大変である。早い内に企業研究を。(工研・男) 自分のアピールポイントをしっかりとすること。例え短所と思える点も必ず長所となりうる点に注意。(工・男) 消極的な性格は裏をかきせば協調性となるし、短気な性格は物事をとびききと行えることも取れることがわかっていれば、面接でアピールポイントがないというようなことではないはずだ。(工研・男) 地方だと受かりやすい。(工・男) 今年就職は大変でした。でもそんな状況の中で自分も自分たちは必死で頑張った。で最後まで頑張ってください。(工・女) 「専門サービス」学生時代に何にうちこんだか、これは必ずといっていいほど聞かれるので、答えに独自性を出せば良いと思つた。(工研・男)

発表も、司会も、 学生たちも、 自主運営 するゼミ

文学部社会科学
産業関係学専攻
「千田忠男ゼミ」
3年次



千田 忠男【文学部教授】

文学部社会科学産業関係学専攻の千田ゼミを訪問した。雇用問題を中心に産業構造・社会構造にまで踏み込んだ議論が展開されていく。千田教授の方針により、発表はもちろん司会もゼミ生自身が行っている。教授はオブザーバーとして、必要に応じて進行を促したり、ときに鋭い質問を投げかけ発表者の論旨の弱点を突く。参加者は必ず発言することが義務づけられていて、自分の研究フィールドにとらわれず、バランスのとれた知識、マクロな視点を磨くことを求める千田先生の意図が読み取れた。今回は『日本における転職事情』と題する北田さんの発表後の活発な議論の様子を一部伝えてみよう。

辻井 祐美子さん

東川 芳江さん

竹田 麻里さん

玉置 京香さん

土井 裕子さん



樋口●続いて質問に移りたいと思います。北田さんの『日本における転職事情』について質問。あるいは意見はありませんか？

大西●北田さんの周囲に、発表にあったような転職者の事例はありますか？もしあったとしたら、転職後環境は良くなったのですか？

北田●良くなった人もいるし、悪くなった人もいます。一人は、バスガイドをしていて、京都の社寺仏閣を回っているうちにそこで働いてみたくなり、今は神社で働いています。これは良くなった例です。もう一人は、OLをしていただけと、突然漫画家になるといって退社。その後は何もしないでフラフラしている（全頁笑）。これは悪い方の例です。要するに明確な意志を持って会社を辞めたのかどうか、彼女たちの、その後、を左右するポイントになっているのです。

辻井●私の先輩は、今春大手都市銀行に入行したのですが、この十月、司法試験を目指すという退職しました。金融機関では意外にもそうした転職希望者が多いのだそうです。聞いてみると残業が日常化しているし、総合職

と一般職の間には仕事の内容のほか、求められるものに大きな差があるのだそうです。

千田●長時間勤務が転職の理由になるのは分かりますが、総合職と一般職の処遇の違いはまた別の問題だという気がしますね。総合職と一般職の区別が転職の動機になっているのだとすれば、もう少し具体的な説明が欲しいですね。

東川●個人的に考えてみても、やりたい仕事がない場合、二・三年社会勉強のつもりで就職して、本当に自分がやりたい仕事って何なんだろうと考えてみるのもいいかもしれないと思う。それも北田さんがいうところの「適職探索行動」ということになるでしょう。

金岡●今、資格をとることが何年就職の近道のように思われていますよね。でも、資格が就職活動に有



■発表者■
北田 千佳さん



大西 隆文さん

樋口 裕介さん

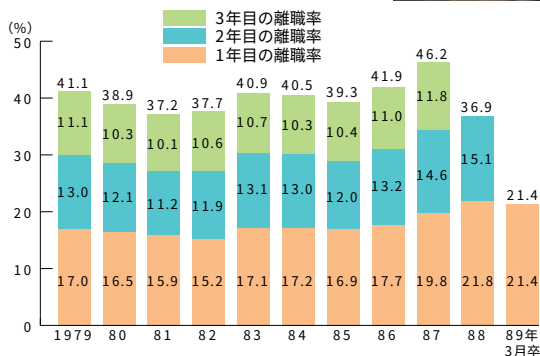
金岡 紘平さん

築田 玄さん



■近年、早期離職者は増加傾向にある
(北田さん発表資料より)

<新規高卒就職者の在職期間別離職率の推移>



利に働く状況には残念ながらなっていないと聞いています。だから、適職探索行動“によってやりたい仕事が見つかり、それに必要な資格を取得したとしてもその仕事につけるかどうかは分からない。

辻井●同感です。最近では就職してから資格を取るというより、就職にあたって必要と思われる資格をしっかりと取ってからその仕事を目指すというのが風潮のようになっていきますが、先輩たちの話を聞いてみても、資格イコール就職とはならないようです。面接においては、資格よりも、その人が持つ潜在的な適性の方が評価される傾向が強いです。

北田●私も、資格はあまり重要だと思わないし、企業側もそう考えている節があって、実務経験は評価しても資格そのものを評価の対象にしているところは少ないのではないのでしょうか。今、手元に資料があって、転職した人の声を集めているのですが、これらの人に共通しているのは、この仕事につきたいという意志が明確であったり、自分の将来像はつきり持っている人たちです。

樋口●北田さんの発表に、「転職者の意識として『早く辞めるほど、リスクが少ない』と考えている」という箇所がありました。在職期間が短ければ、実務経験も身につかず、転職時にはハンディになるのではないですか？

北田●このリスクというのは日本独特のものだと思えます。終身雇用とか年功序列といった企業風土が残っている中では、半年、一年、と長くいるにしたがって、辞めにくい環境が生まれてくる。これが本当にやりたい仕事を探している人にとっては束縛になってく

るんですね。千田●しかし、一年や二年で辞めてしまえばキャリアにならないでしょう。

北田●二回でも三回でも転職し、適職あるいは自分に合った職場が見つければそこでキャリアを積み重ねるのであって、転職行為に大事なのは自分の意になつた仕事、職場を見つけるということなのだと思います。

樋口●そんなにうまくいくとは思えない。二年、三年で辞めていたら企業側から根気のいい人というありがたくないレッテルを貼られ、志望企業に採用されない可能性の方が高いと思います。

北田●確かにそうなんです。自分が適職を探するという行為においてはこういう行動を取らざるをえない。一方、企業側の論理ではおっしゃるようになるのかもしれないが、それは転職というものが企業側にも根付いていないからなんです。転職のネガティブなイメージから抜け出せないでいる。でも雇用の流動性という観点から考えても、企業も変わっていくを得ないのではないのでしょうか。

千田●きょうは「転職」をテーマに北田さんに発表してもらいましたが、今日の雇用関係を考える手掛かりになったと思います。就職活動を控え、みなさん自身が当事者でもあるわけですから、この問題に関しては議論を深めていきましょう。

北田●確かにそうなんです。自分が適職を探するという行為においてはこういう行動を取らざるをえない。一方、企業側の論理ではおっしゃるようになるのかもしれないが、それは転職というものが企業側にも根付いていないからなんです。転職のネガティブなイメージから抜け出せないでいる。でも雇用の流動性という観点から考えても、企業も変わっていくを得ないのではないのでしょうか。

千田●きょうは「転職」をテーマに北田さんに発表してもらいましたが、今日の雇用関係を考える手掛かりになったと思います。就職活動を控え、みなさん自身が当事者でもあるわけですから、この問題に関しては議論を深めていきましょう。

北田●確かにそうなんです。自分が適職を探するという行為においてはこういう行動を取らざるをえない。一方、企業側の論理ではおっしゃるようになるのかもしれないが、それは転職というものが企業側にも根付いていないからなんです。転職のネガティブなイメージから抜け出せないでいる。でも雇用の流動性という観点から考えても、企業も変わっていくを得ないのではないのでしょうか。

千田●きょうは「転職」をテーマに北田さんに発表してもらいましたが、今日の雇用関係を考える手掛かりになったと思います。就職活動を控え、みなさん自身が当事者でもあるわけですから、この問題に関しては議論を深めていきましょう。

北田●確かにそうなんです。自分が適職を探するという行為においてはこういう行動を取らざるをえない。一方、企業側の論理ではおっしゃるようになるのかもしれないが、それは転職というものが企業側にも根付いていないからなんです。転職のネガティブなイメージから抜け出せないでいる。でも雇用の流動性という観点から考えても、企業も変わっていくを得ないのではないのでしょうか。





「日本学生 トライアスロン選手権」 団体優勝

部外団体連合のトライアスロンが、9月12日石川県で開催された「日本学生トライアスロン選手権」で団体優勝の栄冠を勝ち取った。学生トライアスロンは、競泳1500m、自転車40km、競走10kmで行われる苛酷な競技で、団体戦は上位3人の合計順位を競う。主将の土井 望さん（工学部3年次生）は、「団体戦を意識して、インカレへ出場する5人でつねに練習してきました。田辺キャンパスの地形を生かして、ランニング→自転車→ランニングを繰り返し、練習の成果には自信を持って臨みました」と勝因を分析。2000年のシドニーオリンピックには正式種目になるため、競技人口も増えており、学生選手権も年々レベルアップしているだけに価値ある優勝といえる。

また、来年は創部10周年を迎えるにあたり体育会の加盟団体になることが、ひとつの目標でもある。「週5日という体育会並みの練習を部員に課してきましたし、何のためにトライアスロンをやっているのか一人ひとりの部員に考えてもらうことにも努めてきました」と語る。水泳、



左から北尾伶士さん(工4年)、二瀬博文さん(経済2年)、飯島光祐さん(商3年)、土井望さん(工3年)、中川正樹さん(文1年)

自転車、ランニングの3種目をこなすトライアスロンを土井さんは「贅沢なスポーツ」という。大学からはじめても十分に間に合うが、3



土井 望さん

種目のうちどれか一つの競技経験があればよりベター。練習も、それぞれの競技の経験者がコーチ役を務めている。



経済学部 郡嶋 孝ゼミ アメリカ、ヨセミテ国立 公園でゼミ合宿

藤間 葉子さん(経済学部 3年次生)

私達、郡嶋ゼミは、9月20～24日まで自然保護と環境共生都市について学ぶためにアメリカに行ってきました。この研修旅行の特徴は、自分たちですべての計画をたてたことです。

まず、アメリカのどこに行き何をするのか考えました。そして、ヨセミテ国立公園でアメリカの有名なNGO、シ

エラクラブの方とお会いして、自然保護活動について教えて頂くこと、環境共生都市として有名なカリフォルニア州にあるデービス市に行き、人間と自然が共生する街作りを学ぶこととなりました。それにはまず、シエラクラブの方とデービス市の方と連絡をとりあう必要がありました。途中、アメリカの夏休みで連絡がとれなかったり等、いろいろ大変でしたが、メールでやりとりをしていくうちに、私達のやりたいことを理解して頂けて、会って頂けることが決まりました。

私達は、この研修旅行でいろいろな事を学びました。アメリカの自然保護活動、環境や自然への考え方はもとより、目的を達成するための手段の最適な選び方です。このことは一生の宝物になると思います。こんな幸運な機会を与えてくださった郡嶋先生とお世話になった方に心から感謝しています。

<http://www.doshisha.ac.jp/~gunjima/>



1999年度資格試験など合格ランキング

司法試験 最終合格者
大学別ランキング (ベスト10)

順位	大学名	合格者数	前年度合格者数	増減	合格率 (前年度比)	前年 順位
1	東 京	229	213	16	9.1%	1
2	早 稲 田	139	117	22	3.1%	2
3	京 都	112	73	39	8.4%	4
4	慶 應 義 塾	95	91	4	4.3%	3
5	中 央	92	68	24	2.0%	5
6	一 橋	46	31	15	7.5%	6
7	大 阪	28	20	8	5.4%	8
8	上 智	26	18	8	5.1%	10
9	同 志 社	25	26	-1	2.6%	7
10	明 治	21	17	4	1.2%	11
合 計		1,000	812	188	2.9%	

公認会計士
第2次試験合格者数 (ベスト10)

順位	大学名	合格者数
1	慶 應 義 塾	133
2	早 稲 田	88
3	中 央	47
4	東 京	47
5	同 志 社	38
6	一 橋	35
7	京 都	28
8	明 治	27
9	法 政	23
10	大 阪	21
	横浜国立	21

不動産鑑定士
合格者数 (ベスト10)

順位	大学名	合格者数	前年 合格者数
1	早 稲 田	34	50
2	慶 應 義 塾	29	32
3	中 央	18	17
4	明 治	15	17
5	立 教	13	6
6	日 本	12	11
	京 都	12	7
8	東 京	11	7
	関西学院	11	9
10	同 志 社	9	22
	立 命 館	9	11
	青山学院	9	7

ソフトテニスの 奥山・花田組が 二冠達成!

8月、ソフトテニス部の奥山拓巳（商学部4年次生）と花田直弥（商学部1年次生）のペアは、破竹の勢いで西日本学生選手権とインカレ（全日本学生選手権）の両タイトルを連取した。就職活動で出遅れ、練習不足の奥山さんには一抹の不安があったが、連戦といっても過言でない両選手権を、積極的なチームプレーで終始相手ペアをリードし、二冠を勝ち取った。昨年、主将と組んで西日本優勝・インカレ3位を勝ち取った奥山さんは、「ソフトテニス部は、もともと上下関係のない、誰もが何でも話せる自由な雰囲気を実感してきたクラブですが、今年のインカレ優勝で、部員の練習に取り組む姿勢が変わってきました」と昨年の優勝効果の大きさを強調する。奥山・花田両選手は、ペアを組んでまだ半年余りだが、高校の同窓ということもあって息はぴったりだった。



花田直弥さん
（商学部1年）

奥山拓巳さん
（商学部4年）



シンポジウム 「21世紀に期待される 法曹・法律専門職の 資質」

右近 潤一さん（法学研究科博士課程（後期）2年次生）

10月29日
13時15分から、神学館礼拝堂において、法学部・法学研究科・同志社法学会主催のシンポジウムが開催された。本シンポ



ジウムは、パネラーに矢口洪一元最高裁判所長官、橋元四郎平元最高裁判所判事、立石信雄オムロン株式会社代表取締役会長の三名を迎え、深田三徳法学部教授の司会で「21世紀に期待される法曹・法律専門職の資質」をテーマに行われた。

共通して訴えられたのは、判事補制度を廃止し、弁護士から裁判官を採用する「法曹一元論」であり、また今後来るとされる「自立した市民」社会、すなわち、

行政ではなく法が支配する明確なルールの確立された社会にとっての（町医者的）在野法曹の重要性であった。この二点から、法曹人口の拡充が重要であり、それには現在構想中であるロー・スクールの果たす役割が大きいということであった。また、今後必要とされる法曹の資質としては、社会の国際化・グローバル化に伴う語学力、人間に対する深い理解、自己の意見を説得的に表現する力（プレゼンテーション力）、一般常識・一般教養などが強調された。

本学教員・学生ばかりではなく、学外からの来賓も数多く迎え、満席となる程の盛況ぶりであった。パネラーの先生方のお話はそれぞれが大変興味深く、質問も多く出されたが、時間との関係で、すべての質問について回答がいただけなかったのはこの上なく残念であった。



るまでは、知らないことがいっぱいあった。僕たち文系の学生は、工学部の研究室に入る機会なんてまずありませんし…」と話す。一方、キャンパス・ツアーが正式に発足する前からガイドをやっているという小河知世さん（工学研究科博士課程（前期）2年次生）は「人前で話すのは得意ではなかったのですが、苦手克服のために思い切ってやってみました。マニュアルがあるわけではないので、説明は臨機応変。天候次第でコースを変更することもあります」とすっかり板についた様子。キャンパス・ツアーガイドをしてみたいと関心を抱いた方は、ぜひ田辺校地総務課までご一報を！

田辺校地総務課 TEL.0774-65-7010



CAMPUS NEWS

第95回同志社グリークラブ 定期演奏会

有間 英和さん【経済学部】2年次生
同志社グリークラブ外政担当

我が同志社グリークラブは今年で創部95年を迎える日本でも有数の男声合唱団です。95年間、「よりよい音楽をめざし、聴衆と感動を共有する」という伝統を受け継ぎながら、常に合唱の新しい可能性に挑み続けてきました。

近年、学生の課外活動の多様化、学生気質の変化などにより、団員数の減少が見られましたが、今年は多くの新入生が

入部してくれたおかげで、団員数も60人近くに増え、ホール全体に響き渡る力強い男声合唱をお聞きいただけることと思います。

- と き／1999年12月17日（金）
開場18:00 開演18:30
- 場 所／いずみホール 駐車場完備（有料）
- 入場料／S席2,000円（座席指定）
A席1,500円（当日17:30より座席券交換）
- 問い合わせ先／同志社グリークラブ
TEL.075-251-3185（呼）



99年度同志社の クリスマス

クリスマスの恒例行事として、同志社関係者はもとより一般市民にも親しまれている、クリスマス燭火讃美礼拝、全同志社クリスマスキャンドルライト・サービス、全同志社メサイア演奏会。今年も様々な趣向で行われます。クリスマスを祝うひとときをお過ごしください。



■クリスマスの恒例行事

第10回クリスマス燭火讃美礼拝 —Christmas in Tanabe Campus—		全同志社クリスマス キャンドルライト・サービス		第35回全同志社メサイア演奏会 （観前からは通算48回目）	
出演	同志社学生聖歌隊、同志社女子大学聖歌隊、同志社大学マンドリンクラブ、京田辺市民合唱団、田辺少年少女合唱団コスモス	出演	同志社諸学校の聖歌隊	出演	同志社交響楽団、同志社グリークラブ、同志社女子大学メサイア研究会ほか
入場料	無 料【要入場整理券】 （両校地のキリスト教文化センター、田辺校地の学生課・教務事務室・総務課・学術情報センターにて配布）	入場料	無 料【要入場整理券】 （両校地のキリスト教文化センターにて配布）	指揮者	佐藤功太郎
とき	12月10日（金）18時30分開演	とき	12月22日（水）18時開演（17時30分開場）	ソリスト	Soprano 松下悦子 Alto 栗林朋子 Tenor 金谷良三 Bass 三原 剛
ところ	新島記念講堂（田辺校地）	ところ	同志社女子大学栄光館（今出川校地）	入場料	¥1,500 ＜同志社大学生協プレイガイド、京都コンサートホール、十字屋三条本店にて発売＞
問合せ先	キリスト教文化センター TEL.0774-65-7370	問合せ先	同志社女子大学宗教部 TEL.075-251-4141	とき	12月24日（金）18時開演（17時開場）
				ところ	京都コンサートホール大ホール
				問合せ先	同志社交響楽団BOX TEL.075-251-3185（呼）

お 便 り

今年の夏に同志社大学の「人力車を引いて日本縦断」の学生が皆さんがUHBの取材スタッフと共に当店にみえました。食事が終わった後のテーブルの上の食器は、見事にひとところに片付けられていました。真っ黒な顔に、真っ白い歯

がこぼれ生き生きとした、明るい学生たちの笑顔と、素敵な心遣いに感動しました。

一陣の爽やかな風が店内を吹き抜けて行きました。

北海道滝川市 松尾ジンギスカン本店 松尾 美野子



CAMPUS NEWS

経済学部西村卓ゼミ・ 亀岡高校日本文化コース 大学・高校の枠を 超えた合同ゼミ

大学間の
合同ゼミ
は、本学で
もすでに実
施されてい
るが、経済



学部西村卓ゼミではこの度、高校生との合同ゼミを行った。参加したのは同ゼミ生25人と京都府立亀岡高校日本文化コースの33人。同ゼミでは、かねてから演習にフィールドワーク手法を取り入れ、今夏にはその成果を『京の庶民史』として編纂し、刊行した。一方、亀岡高校日本文化コースもフィールドワークを授業に取り入れ、昨年度には亀山城下町（現：亀岡市）を復元して、高校教育におけるフィールドワークのひとつのスタイルを確立した。今回の合同ゼミは、フィールドワーカーとして互いに交流を深めるとともに、経験を持ち寄って触発し合い、あわせて大学・高校の教育の在り方を検証しようという目標を掲げたもの。

合同ゼミは、まず西村卓ゼミの“コンペイトウ”チームが、16世紀末にポルトガルから伝来した金平糖をテーマに、国内で唯一伝統の製法を守り続けている京都



の老舗「緑寿庵清水」取材した成果を
V T R と

Webを使って発表。続いて亀岡高校が、亀山城下町の町並みについて発表した。調査資料にはあらわれない、微笑ましい逸話を交えての楽しい発表に、フィールドワークの魅力の一端が伺われた。

発表と質疑応答の後には、グループに分かれて個別交流が行われ、机上の勉強にとられない勉学のスタイル、あるいは地域住民との交流など、話題は多岐に広がった。



CAMPUS NEWS

大学院生、酒井さんが 『新潮』新人賞を受賞

経済学研究科博士課程（後期）2年次生の酒井隆之さんが、第31回『新潮』新人賞を受賞した。今回から小説部門と評論・ノン



フィクション部門に分かれ、酒井さんは評論・ノンフィクション部門の受賞となった。対象となった作品『渦中であるといふこと—三島由紀夫と日本近代の青春—』では、硬質な筆致の三島論を展開している。「三島由紀夫が身を挺して示した近代のいびつさと訣別するために書いた」という酒井さんは、本学経済学部に入學と同時に双子の弟さんと同人雑誌『文藝への帰還』を発刊。現在という時代を昭和初期との持続の中で考えるという視点を一貫して持ち続け、文芸と経済の両面から批判的な姿勢を貫いている。受賞に関しては特

別な感慨はないというが、要請があればどこにでも書くとも語る。短歌をたしなみ、何気ない日常の中でも、季節に触れられる京都の生活が気に入っているという。



CAMPUS NEWS

同大生が案内する 田辺キャンパスツアー



2年目を迎えた田辺キャンパス・ツアーは勉強環境を身近に体験できるとあって高校生たちに好評だ。ガイド役を買って出ている学生たちも、そのあたりは心得ているようで、施設利用者の目線で分かりやすく説明していく。コースは見学時間に合わせて決めるそうだが、図書館（メディアライブラリー）や歴史資料館、恵道館（パソコンルーム）、工学部棟が中心。余裕があれば、バスを使って体育施設を見学することもできる。

ガイドはまだ7回目という岡山勝太さん（経済学部2年次生）は、「ガイドをす



上質の教育



八木 匡

【経済学部教授】

1959年生まれ。名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。京都大学経済研究所助手、名古屋大学経済学部助教授を経て、1998年同志社大学に入社。「所得分配と公共政策」で名古屋大学より経済学博士取得。専門は公共経済学。Journal of Risk and Insurance, Review of Income and Wealth, Regional Science and Urban Economics, Bulletin of Economic Research, Urban Studies 等の学術雑誌に論文掲載。

「落ちこぼれ」「学級崩壊」「いじめ」という言葉で代表されているように、教育の現場は克服すべき課題に数多く直面しています。文部省は、学習指導要領の改訂を「ゆとりある教育」というスローガンの下に進めてきており、二〇〇二年からは新学習指導要領がスタートします。しかしながら、新学習指導要領に対して憂慮する声が少なくありません。ここでは、小学校で学ぶ教科の内容が三割も削られ、学ぶことが大幅にやさしくなると言われているからであります。「わからない子を無くし、落ちこぼれを無くすために、ゆとりある教育を行う」という言葉は、いかにももっともらしく響きますが、「わからない子を無くすことは、全員を低学力にすることを意味している危険性があります」。

「落ちこぼれ」を解決する方法として、「全員を落ちこぼれにする」という手段をとることは、冷静に考えて見ればまったく馬鹿げて

います。本来は「落ちこぼれ」を解決する方法を専門的に研究すべきでしょうし、米国では実際にこうした研究が進められ、また成果を収めているという話を聞いております。



その一つにWilliam Glasserが提唱している「選択理論」に基づいた「Quality School（上質の教育）」という試みがあります。ここで私が理解したこの「上質の教育」の基本的考えをほんの少しですが紹介させて頂きます。

これまで多くの教師は、悪いことをしたあるいは誤ったことをした学生を叱り正すという「刺激―反応理論」が有効であると信じてきたと考えられます。しかし、「上質の教育」はこのような「刺激―反応理論」を否定し、教育は学生と教師との間での暖かい人間関係から出発すると考えます。批判したり、責め

たり、威嚇することは人間関係にとってはマイナスである場合が多く、有効でない場合も多いと言えます。最も重要なのは、自己評価する能力をつけさせることであり、自らの動機付けで努力させることであるとGlasserは主張します。Glasserは、このような考えに基づき、顕著な教育成果を挙げたと言われています。

新島襄先生によって築かれた同志社大学の校風と教育のスタンスは、Glasserの主張する「上質の教育」と相通じる点が多いと思われます。いま、企業が採用に際して重視していることは学力と専門的思考能力であり、学力とは「読み」、「書き」、「数学的能力」であり、極言すれば論理思考能力であります。同志社大学の学生に対しては、自己啓発を伴った教育を通じて、一層の学力の充実に図っていき、教員・学生共に、「上質の教育」を目指していきたいと思えます。

一 張 羅

「おれにやなんだよ……(中略)……どうも自分が、一生着物はかり着換えていたような気がするんだよ……」

マクシム・ゴリキの『どん底』という戯曲に登場する「男爵」の台詞です(中村白葉訳、岩波文庫版)。他にも聞かせどころ、見せどころの多いこの芝居で、繰り返し観ても読んでも、この男爵がひとりごと場面面に心を打たれる。舞台は革命前のロシア、「ほら穴のような」地下の本質宿に、重篤の妻を連れた錠前屋、元役者春をひさぐ娘、若い泥棒、流浪の巡礼、そして零落貴族の男爵など他に行き場をなくしてしまった人たちがいて、その日その日を暮らしている。そんななかで、ぼつりと呟かれるのが右の台詞です。なぜ惹かれるのか、考えてみました。まず、この台詞が、当の男爵だけでなくあらゆる人の来し方をよく言い表しているなという事です。男爵は、劇中の設定では、今の私と同じ歳、自分のことを振り返ってみても、

元貴族の彼ほどではないにしろ、ずいぶんいろいろなものを身につけ、着古し、捨ててきたように思います。その時どきにどんなものを着ていたかを思い出すだけで、当時どんな気分で行っていたのか、何に熱中していたのか、その時どきの環境のなかでどのような立場にいたかと思い起こされます。

また、男爵の嘆きのもつ示唆の深さにも惹かれるのかもしれませんが、「貴族学校の制服も着たけれど、今は、ネズミ色の背広と人参色のズボンをはくような境涯に落ちた」と、彼は嘆く。しかし、彼の嘆きは、着るものにあらわれる境涯の転変だけにあつたのだろうか、とも思うのです。たしかに貴族の身から「どん底」に「落ちた」ことも、彼には「とてな」ことでしょう。それ以上になお「着物はかり着換えていた」ことの方を、すなわち、着るものが変わるばかりで確とした中身「自分なりの生き様」がなかったことの方を、彼は哀しく思っているのではないだろ



林田 秀樹

【人文科学研究所専任講師】

1966年大阪生まれ、神戸商科大学大学院博士前期課程修了。1994年、同志社大学入社。専門は、アジア経済。論文には、「対インドネシア関係と日本の輸出超過」(『星陵台論集』26巻2号)、「東南アジアにおける貧困不平等問題」(人文科学研究所編『世界経済の構造的変化とマクロ経済政策』)など。

うか。そのことに、男爵の本当の嘆きがあるのではないか。そして、次のように思うのです。

皆さんも、学生服を脱ぎ捨て、スーツに身を纏うまで「大学生」という衣をまとわれる。着心地はいかがでしょうか？私には、皆さんの「大学生」若さという着物が、やはり天衣無縫で何よりもまぶしく思われるのです。そしてそのまぶしい時代に、無縫の天衣で、一生涯着続けることのできる「一張羅」「自分なりの生き様を支える何か」を仕立ててはいかがでしょう。他のいろんなものを着たり脱いだりしても、「これを着れば身が引き締まる」というようなとっておきの一着を。それは、専門の知識や技術であっても、あるいは自分なりの「ものの見方・考え方」であつてもいいと思います。お金なんてかけなくても、皆さんのエネルギーとたゆまぬ努力があれば、きつと着れば着るほどサマになるのが仕上がりますよ。斯く言う私も、心したいと思います。

先生の推薦する

VIDEO

亀谷百合佳

【言語文化教育研究センター専任講師】



『天使が見た夢』

監督: Eric ZONCA

主演: Elodie BOUCHEZ, Natacha REGNIER

天使とは神の使いであるとともに性別を持たない。ここに登場する「天使」は、女性であるが、ティーンエイジャーでもなく大人でもない。ゾンカ監督は誰もが体験する過渡期の痛みを現代フランス社会の若者像を通して見事に描き出している。

ある冬、フランス北部のルールで恋人に逃げられ、行く当ても無くなってしまう女性イザは、工場でマリーに出会い、彼女が留守番を頼まれているアパートに泊めてもらうことになる。そのアパートの家主は交通事故で

ティーンエイジャーでもなく大人でもない「天使」

死に、残った一人娘は植物人間と化していた。屈託のない純粋なイザと何事にも否定的で生皮をはがれたような神経を持ったマリーは意外にも意気投合し、共同生活が始まる。ふとしたことからイザは入院中の娘の日記を読み、意識のない彼女の病室を訪れるようになる。マリーは金持ちの息子に出会い、遊ばれると分かっているが彼にのめり込んでいく。そこからイザとマリーの関係はぎくしゃくするようになり、遂には…。

こうして筋立てだけ書くとぼろとしないかもしれないが、正直なところ、この作品はあ

まりに強烈で完璧で、どこをどう説明したら良いのか悩んでしまう。その強烈さは決して映像の特殊効果や音楽、並外れた主人公を登場させることによるものではないし、完璧さも見ている側が常に疎外感を感じるような冷やかな完璧さではない。日記の紙の上に手が触れ、ペンが走る音、タバコの煙の「音」…。日常生活の何気ない音までも、ここでは新鮮に「香ばしく」聞こえてくる。映画音楽と呼べるものは最後のクレジット・タイトルの時に初めて使われているだけである。演技であることさえも忘れさせる役者の演技、編集のテンポ、脚本、画面構成、録音、何もかもが自然で、一切の無駄もミスタッチもない。そして何よりも、真冬のフランス北部で巡り会ったドロップアウトした二人の女性、という一見暗く、重苦しい雰囲気になりそうなテーマであるにも関わらず、清新な作品に仕上がっているから不思議である(当時四十二歳の監督、ゾンカにとっては劇場公開処女作だった)。この映画が昨年のカンヌ映画祭で審査員一同の絶賛を博し、主演女優の二人が主演女優賞をダブル受賞した理由には大きくうなずける。

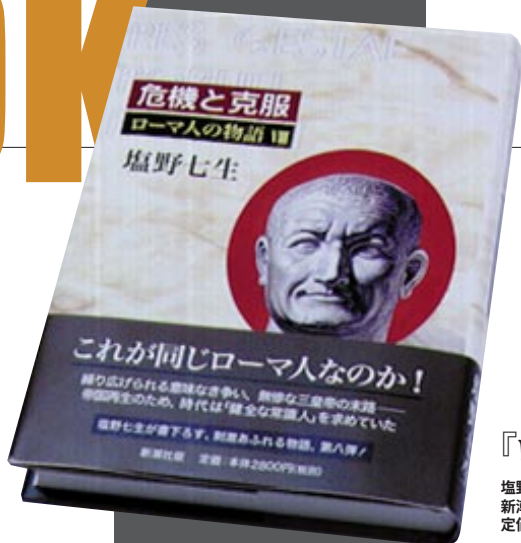
このところ映画市場に氾濫しているハリウッドの巨大化する製作に比べると、『天使が見た夢』はフランス映画が健在であることが確かめられるし、映画の娯楽ではなく芸術としての次元を思い出させてくれる。詩人ボードレルのことを借りれば「私は泥をこね、それから黄金を作った。ゾンカの暖かな眼差しが伝わって来る魔力的な傑作にはいかなる技巧も不要である。

先生の推薦する

BOOK

百合野 正博

【商学部助教授】



『ローマ人の物語』

塩野七生著
新潮社 1992～
定価2,800円（税別）

「ナポリを見て死ね」という諺があるので、イタリアに入った日にとりあえずナポリに向かうことにした。十六年前の夏のことで、あづさな列車のせいで予定より半日遅れて着いてみると、ナポリはまさに絵に描いたようなカオスの町だった。ホテルの窓から見下ろすと、道路いっぱいに広がった車という車がクラクションを鳴らして身動きとれずにいる。その真ん中にサインレンを鳴らした救急車が立ち往生。諺は、ナポリを見たら死にたくなる「の間違いないかと家内と顔を見合わせた。

大いなるイタリアの遺産

ローマも似たり寄ったり。町に出たら、朝っぱらからいい歳をした若者が街角で所在なさげにぼんやりしている。バスに乗ろうとするとどこからともなくスリの一団が現れて私を取り囲むし、駅で時刻表を見ていると頭の前からつま先まで交通局か観光局の職員の制服を着た詐欺師が親切そうな物腰で法外な値段のツアーを売りに来る。夜、道で客引きをしている女性は、実はきれいな男性だった。うかうかしているととても無事に日本に戻れそうにない。

他方、裏道のリストランテのおやじに「日本

人だろ？おいしいものを食わせてやるからませとき」と言われて、半信半疑で待ついたら、出てくるものが出てくるものがおいしくて、オリーブの実一個も残さずに片づけて大満足。代金を払う際に、もう一度大満足。そして、われわれが店を出るところから店にはぎわい始めた。毎晩真夜中まで町中呑めや歌えのどんちゃん騒ぎが続くとか。

一週間もそんな環境に浸っていると、働きバチの国からやって来たわれわれは、この国はいい！というふうになり立っているんだ？ととまどってしまふ。

そのような疑問に解答のヒントを与えてくれるのが塩野七生さんの『ローマ人の物語』（新潮社刊）。一九九二年の第一巻以来、今年九月の第八巻まで、毎年一冊ずつ出版されている。今から二〇〇〇年も前の人びとの生活が大変読みやすい文章によつて生き生きと描き出されているので、ふと、現代の出来事のような錯覚に陥るほど。色々な読み方があるうが、私は、ローマが大変よくできた市民社会だったということに強く引かれる。そのための仕組みがちやんとできていたのである。例えば、政治家という最高権力者に対しても会計検査官が目を光らせたとか、責任者が交替しても組織がちやんと動くようにマニュアルを整備したとか、カエサルは市民に情報が行き渡るように工夫したといったエピソードを読むと、現在の西欧社会の基本的なものの考え方のルーツがここにあることがわかる。

イタリアは、今日に至っても食いつぶすことのない大きな遺産を相続しているのである。その一つが、一人ひとりの人生が何よりも大事！ということなのだろう。

My Life. 仕事」

第6回

が仕事を通して見た「社会」とは？
ことの意義とは？

先輩の声に耳を傾けながら、
学生生活の現実を考える機会にしたいものです。

My Job
My Life

自分が書かなければ
きつと誰も書かないであらう、
そんな記事を書いてみたい。

私は経済学部出身で、卒業時はバブル真っ只中。周囲の多くは銀行や証券会社など金融関係を志望していました。でも、スポーツが好きで、スポーツに関わる仕事がしたいと考えていた私は、新聞記者の道を選びました。新聞記者といえば、夜うち朝がけの言葉から連想されるように、勤務時間が不規則で、男性の職場というイメージが強いと思います。女性の進出が目につきはじめるのは、男女雇用機会均等法の改正以降のことです。事実、私が入社した当時は女性の先輩は多くありませんでした。二週間の研修を終えると、早速現場に配属。すべて実践の中で仕事を覚えるのが社の方針でしたから、失敗を重ねながら自分のやり方を身につけるほかありません。さすがに、勤務時間は不規則で、連絡が入ると現場に駆けつけねばならず、お

げで友人との約束を直前にキャンセルすることも何度ありました。

勤務地は、最初に配属された広島支局を振り出しに、大阪本社勤務を経て、二年前現在の奈良支局に着任しました。駆け出し記者として仕事のいろはを覚えた広島時代、特別報道部に所属し、ソリフジンの副作用とそれにまつわるインサイダー取引の調査報道にスタフとして参加した後、念願の運動部記者として過した大阪本社時代。そして県庁担当記者として、後輩たちの仕事ぶりを見守りながら記者クラブに詰める日々を送る現在と、それぞれの赴任先でそれぞれ異なるキャリアを磨くことができたことを素直に喜んでいます。とくに、当地に来てからは母校の同志社に近いこともあり、スポーツ政策



PROFILE

辻中さんは、「つねに問題意識を持って社会を見ること」を新聞記者の大切な心得とする。夏期休暇をとって出かけたアメリカ旅行。メジャーリーグを観戦し、現地のベースボール関係者と言葉を交わすうちに、日本のプロ野球選手もメジャーリーグに挑戦すべきだという結論に達した。帰国後、これをプロ野球界への提言として記事に…。その後、野茂選手を皮切りに多くの野球選手がメジャーを目指しはじめたのは、決して偶然ではなさそうだ。



辻中 祐子さん

【1990年経済学部卒業、総合政策科学研究科2年次生】
毎日新聞社奈良支局勤務

フォーラムに参加したのが縁で、総合政策科学研究科で学ぶ機会を得ることもできました。記者の目を通して見てきた日本のスポーツの現状を、もう一度体系的に捉え直したい。そして、地域コミュニティをベースにしたクラブ組織で、スポーツの振興を図る可能性を探ってみたいと考えています。スポーツに関わることに憧れて飛び込んだ新聞記者の世界。特ダネ至上主義が幅をきかす中で、自分が書かなくても誰かが書くであろう特ダネではなく、自分が書かなければきつと誰も書かないであろう、そんなテーマを追いかけてみたいと思っています。

最後になりましたが、後輩のみなさんには、自分のやりたい事にこだわって将来の道を選んで欲しい。とりわけ女性については、妥協をしないことが、将来の仕事と家庭の両立につながるのだと思います。

シリーズ

『ONE PURPOSE』では、さまざまな分野で活躍する先輩を訪ね、毎号「私と仕事」をテーマにお話を伺っていきます。

私と「My Job,」

社会へ出てかれこれ？年。先輩たちあるいは「生きる」

歩んだ道も経験もそれぞれ違
将来の自分にふさわしいキャリア・プランと学

My Job
My Life

この鍋蓋はどうしたら売れるのか？
とことん考え抜くのが商社マンだ。

商社マンというと、とかくフィルタを掛けて語られがちです。良く言えば、英語を流暢に操る国際派、悪くすれば、横文字好きのキザな人というイメージを抱いている人も少なくないかもしれませんが、私の場合は、大阪育ちだということもあって、商社マンといえども所詮商人（あきんど）。船場で服地を売っているおばちゃん（延長線だ）と考えて入社しました。私が働くことになった伊藤忠商事も元をたどれば近江商人に行き着くのですから…。とはいえ、総合商社ですから、英語と貿易の知識は必須です。入社後待ち受けていたのも、やはり英語と貿易、それにビジネスの基本動作を集約的に学ぶ合宿。お世辞にも英語が得意と言えなかった私は、受験勉強の方がよほど楽だと思えるくらい勉強しました。

た。その後は、会社のサポートがあるわけでもなく、英会話教室に通うなど、自分で勉強を続けました。

こうして三年目、やっと英語力を生かせる時がきました。海外赴任の辞令が降りたのです。ところが着任先の米国オレゴン州で、いざ仕事を始めてみると、電話の向こうから聞こえてくる英語が理解できないのです。億単位のビジネスが常識の商社にあって、英語が聞き取れませんでした。ではすまされない問題です。胃がキリキリと痛み、眠れない日々が続きました。ネイティブの英語に慣れるために、一人でよく映画館にも出かけました。でも、観衆がなぜこんなところで笑うのか分からない。結局、英語で一人前にビジネスができるようになるまで半年かかりました。その間の忍耐力、現実から逃げずに立ち向かう精神力こそ、同志社のポート部で、四年間もくもくとオールを漕ぎ続けてきた汗の結晶なのかもしれません。

商社マンは忙しいとよく言われますが、実は自分で忙しくしているのです。たとえば中



PROFILE

ベトナムでの商談に参加したとき、高橋さんはうれしい出会いを経験した。交渉にあたり、ベトナム側にはひとりの弁護士が同席していた。彼はオーストラリア人だったが、同志社のポート部のことをよく知っていた。話はずみ、オリンピックに出場した同志社クルーのこと、さらにオールの色にまで至った。彼は、スライプで塗り分けられたオールの色まで克明に覚えていてくれたのだ。海の向こうでの邂逅（かいこう）が、あらためて高橋さんに同志社ポートマンの誇りを思い出させたという。



高橋 良明さん

【1987年商学部卒業】

伊藤忠商事、生活産業カンパニー・穀物部勤務

国にビール工場を作ってみようという構想を持ったとすると、まず中国の法律はどうなっているかを調べ、次に商慣習について調べる…と、際限なく仕事が膨らんでいく。辛いかと尋ねられれば、確かに辛い。しかし、上司の指示ではなく、自分で構想を練り、自分の責任で行動しているのですから、辛くても誰かのせいにするわけにもいかない。それに、ゴールすれば大きな達成感が得られることを知っているからです。

このように充実した毎日を送っている私ですが、学生時代に思い残したことがひとつあります。それはもうと本を読んでもおくべきだったということです。専門的な知識は、社会に出てから身につければ十分間に合います。しかし、教養としての読書は社会人になってからでは間に合わないのです。どうぞ後輩のみなさんは、悔いを残さないよう、自由な時間を生かして読書に励んでください。

A N N O U N C E M E N T

課外スキー参加者募集

本年度も恒例の課外スキー講習を行います。内容は技術レベルにあったクラス編成で、少人数の集中指導が行われます。対象者は同志社大学生なら誰でも参加できます(大学院生も大いに歓迎します)。午前中はレッスン、午後はフリー滑走です。スキーを始めたいと思っている人、スキーがうまくなりたい人は是非、この機会に参加してみませんか。



- 日 程／①2月16日(水)～19日(土) 3泊4日
②3月 6日(月)～ 9日(木) 3泊4日
- スキー場／長野県野沢温泉スキー場
- 参加費／41,000円(予定)(交通費・用具レンタル料を除く)
- 説明会／田 辺 1月19日(水) 16:45～(TC1-121番教室)
今出川 1月21日(金) 16:45～(S1番教室)
- 募集期間／12月20日(月)～1月18日(火)
- 問い合わせ先／体育係(田辺校地盤上館) TEL.0774-65-7510

アッセンブリーアワー

- 日 時／1999年12月9日(木) 15:00～16:15
- 場 所／田辺キャンパス ラウンジ棟会議室201
- テ ー マ／タイの山岳民族とともに
- 講 師／原 誠(本学神学部助教授)
- 問い合わせ先／学生課(田辺) TEL.0774-65-7410

同志社大学神学部 シンポジウム

- 日 時／1999年12月11日(土) 13:00～16:00
- 場 所／今出川キャンパス 神学館礼拝堂
- テ ー マ／若者と「癒し」 一家庭と学校のはざまからの叫びに答えるー
- 講 師／上田紀行(宗教学人類学者)
芹沢俊介(評論家)
小原克博(神学者)
- 問い合わせ先／神学部事務局 TEL.075-251-3330

同志社大学経済学会
創立五十周年記念シンポジウム

- 日 時／1999年12月4日(土) 13:30～17:00
- 場 所／今出川校地 明德館21番教室
- 演 題／あすの日本と経済学の課題
- コーディネーター(兼パネリスト)／篠原総一(同志社大学経済学部教授)
- 基調講演／宇澤弘文(東京大学名誉教授、文化勲章受章)
- パネリスト／林 敏彦(大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)
猪木武徳(大阪大学大学院経済学研究科経済学部教授)
室田 武(同志社大学経済学部教授)
吉川 洋(東京大学大学院経済学研究科教授)
- 対 象／本学学生、一般市民
- 問い合わせ先／同志社大学経済学会 TEL.075-251-3534

田辺校地愛称募集の結果について

前号で募集しました田辺キャンパスの愛称について、66通の応募がありました。たくさんのご応募、ありがとうございました。その一部を紹介します。
[京田辺キャンパス(DKC)、学研都市キャンパス、けいはんな京田辺キャンパス、南同志社キャンパス、良心の丘キャンパス、リバティキャンパス、知の空キャンパス、ほか] なお、愛称は決定次第本誌にてお知らせします。

お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

ONE PURPOSE

同志社大学通信121号

1999年12月1日(4・6・10・12月年4回)発行

発行 同志社大学 広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL. 075-251-3120 FAX.075-251-3080
E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

